

卒業論文の要旨

論文題目	オルテガ『大衆の反逆』、ペラルナウ『グアルディオラ総論』に基づく グアルディオラにみるサッカーの貴族性に関する試論
氏名	岩崎玄太郎
メジャー	歴史学
(要旨) サッカーとは世界中の人々に知られるメジャーなスポーツであるが、究極的にサッカーとは何なのかを問うたとき、哲学的に答えを明示できない余白を残している。一般的に「サッカーを哲学する」となるとプレー面におけるいわゆる“実践”の哲学となるが、本試論における「サッカーの哲学的分析」の試みは“観想”の哲学である。本論ではそのような観想的サッカー哲学の視点からサッカーの精神的意義とは何か、根本的にサッカーとは何かを考察した試論である。 それに際して論拠としたのがスペイン出身の二人の人物、哲学者オルテガ・イ・ガセットとサッカー監督ジョゼップ・グアルディオラであり、本稿ではオルテガが主張する生の哲学的視点を参考にグアルディオラのサッカーとの関わり合いからサッカーの持つ力の検証・考察へと展開していく。オルテガの『大衆の反逆』では、この世の人間を二種類に大別している。“大衆”と“貴族”である。誤解が生まれるので、正確を期すとこの二つに一般的な階級的意味合いは含まれない。それは両者とも、より本質的かつ精神的な意味合いを持っているのだ。ドイツの詩人、ゲーテはこの両者の様相を的確に示している。「好き勝手に生きること、これは平民(本試論における“大衆”)の生き方だ。すなわち貴族は秩序と法を希求する」。 第一章ではオルテガが生きた時代に“大衆”がこの世界の支配者となった統計的事実とオルテガによる“大衆”の分析を、第二章、第三章ではオルテガが示した“貴族”の概念に基づき、マルティ・ペラルナウ『グアルディオラ総論』を通して、グアルディオラひいてはサッカーがいかに貴族的であるか、貴族性を有しているかを分析した。そこから見えてきたものはグアルディオラに限らず、“貴族”の精神性を持った者たちの生の闘いの歴史であった。 本論におけるサッカーの貴族性の証明は以下の通りである。1.オルテガによる“貴族”の提示。2.グアルディオラがいかに“貴族的”であるかの証明、3、証明をサッカーへと拡張し、既成概念からの脱却と社会への有用性をもって“サッカーの貴族性”を導き出す。 二人のスペイン人を通して世界の様相の一端を考察し、サッカーから社会・社会からサッカーの相互作用を論ずることで真の意味での「サッカーを哲学する」を実現するものと考え、本試論の考察に至った。	
(指導教員の推薦のコメント) オルテガ『大衆の反逆』の提起する“大衆”と“貴族(少数者)”の概念と様相を基軸とし、グアルディオラ監督の姿勢と理念に基づいてサッカーの精神性、貴族性の分析・論証をおこなった極めて意欲的な試論であり、この主題が『グアルディオラ総論』および筆者のサッカーにおける知識・見解とともに展開されてゆく。筆者の既成概念に拘泥されない追究の姿勢とともに、今後のさらなる緻密な論理的展開と思索の深化を期待しつつ本論文を優秀卒業論文として推薦するものである。	

